

宮前区 歴史地図

宮前区は多摩丘陵の一角に位置し、丘陵を縫って平瀬川、矢上川、有馬川が東へ流れています。かつては川に沿って集落が点在し、戸田町の丘陵での畑作や植木栽培など静かな農地帯帯でした。七段地区では、旧石器時代の縄文・縄遺跡や、火葬墓が見つかった瀬見台遺跡など多くの遺跡が発掘されています。7世紀終わりに橘樹官衙遺跡群として国史跡に指定された古代寺院である影向寺が創建され、隣接する高津区の橘樹郡家と今、今の川崎市中心に相当する武蔵国橘樹郡の中心地として栄えました。鎌倉時代には鎌倉が杉并城や谷延城への鎌倉道が区内を通過していました。江戸時代のはじめは矢倉沢村(現在の中原街)が整備され、中期以降は大山街道が盛んになり矢倉沢村は大山街道と呼ばれるようになりました。江戸時代、区域には野川村、梶ヶ谷村、土橋村、馬絹村、有馬村、長尾村、平村、下管生村があり、享保年間には麻布天眞寺による開墾で天眞寺新田村が生まれました。

明治に入り、明治22年(1890)に市制・町村制が施行され、近代的な地方自治体として宮前(みやさき)村、向丘(むかおか)村が成立。昭和13年(1938)には川崎市に編入されました。昭和47年(1972)には川崎市が政令指定都市となり、区域は高津区となりました。その後、田園都市線の渋谷直通などで都市化が進み、昭和57年(1982)に高津区から分区分区が誕生しました。



- ① 土橋 ～娘婿の伝説をたずねて～
- ② 馬橋 ～馬橋古墳と花嫁の恋～
- ③ 磐生 ～鎌倉道の面影を偲ぶ～
- ④ 野川 ～橋場の古刹と都節道～
- ⑤ 有馬 ～有馬の丘と社寺巡り～
- ⑥ 平 ～毛羽野呂音巻発祥の地～
- ⑦ 長尾 ～緑の丘に遺跡を訪ねる～
- ⑧ 大街道道 ～多摩川沿いの難所を越えて～
- ⑨ 南の横大道 ～御嶽山へつなぐ道～
- ⑩ 王寺古道 ～東の高野山、王寺へ～
- ⑪ 御嶽道 ～豊作に折るあくる～
- ⑫ 鎌倉街道 ～区内に残る中世の道～

宮前区の谷戸

